

2-1-4 利用面からみた現況

(1) 地域の生活利用

丹後地方は、その大半が、山地が海に迫り、平地が少ない地形である。

海沿いの集落は、あまり農耕に適しておらず、また、陸上交通の便が良くない条件下で、生活を営んできたため、日常生活と海岸・海は非常に密接な関わりがある。特に、舞鶴市の大浦半島、宮津市の栗田半島、丹後半島沿岸は、その傾向が強い。

これらの地域では、昔から、「半農半漁」と言われるような、小規模な採取漁業が、生活の中で行われてきており、「里山」的感覚で海岸が利用されてきた。これらの多くは、生活の一部として、海岸での魚釣、貝類・海藻の採取といったものであるが、中には丹後町袖志のように、丹後地方では珍しい海女集落に発展していたところもある。伝統的に行われてきたこれらの漁業が、湾形状で水深があるなど、地形的に有利なところでは、後年、船舶を使用しての大規模漁業に切り替わり、数多くの漁港が生まれることになった。



定期船の船着場

また、地形上の制約から、道路整備が遅れたため、外との連絡に長く船舶が使われており、昭和30年代頃まで、道路が通じず「陸の孤島」であったところも多く、これらの集落では、海岸が港であり、玄関の役割を果たしていた。砂浜、ゴロタ石浜などが、そのまま船揚に利用され、海岸に「船小屋」ができることとなった。これらは、現在も数多く残っている。特に、極端に背後地が狭小である伊根湾周辺では、これが住居も兼ねた「舟屋」に発展したものと考

えられる。

更に、自然の海岸を小規模に改変し、棧橋として使用するケースも多く、舞鶴湾内や宮津～伊根にかけての海岸線沿では、これが発展して定期旅客航路が運航されてきた。しかし、現在では、道路網の発達により、宮津伊根航路や舞鶴湾内航路は廃止されることとなった。

以上のとおり、丹後沿岸においては日常生活と海岸が密接に結びついており、海岸の保全を計画する場合は、これを十分認識した上行うことが不可欠である。



イカ干し

(2) イベント・祭り

丹後沿岸の多様で豊かな自然環境の恩恵を受け人々は、古くからこの沿岸で生活を営んできた。その生活とともに生まれ、伝えられてきた祭りや、近年新たに始まったイベントには、海岸の特性を活かしたものが多く、多くの集客を毎年期待できる観光資源となっている。

海岸保全基本計画において、防護施設が必要とされるときには、これらの生活に密着した利用・観光利用を把握し、防護面とのバランスに十分留意していく必要がある。

図2 - 15 : イベント・祭位置図



てんころ船競争 (宮津市)



伊根祭 (伊根町)



水無月祭 (京丹後市網野町)

(3) 観光・レジャー施設

沿岸地域の観光資源は、天橋立、丹後松島等の海岸景勝地と海水浴場が中心である。近年は、これらと近隣に点在する温泉施設や、カニなどの海産物を併せた観光が、主流になりつつある。この他、湾内の海や背後の山も含めて、漁村として全国で初めて、国の重要伝統的建造物保存地区に選定された「伊根の舟屋」の独特な漁村景観や、海産物市場なども主要な観光資源となっている。

また、レジャー・スポーツ施設、見学・体験施設、文化施設、文化施設、自然資源も各所に点在している。



冠島とオオミズナギドリ（舞鶴市）
（出典：京都の自然 200 選）



舟屋（伊根町）【伊根漁港海岸】



琴引浜（京丹後市網野町）【一般公共海岸】



図 2 - 1 6 : 観光・レジャー位置図

(4) 海水浴場

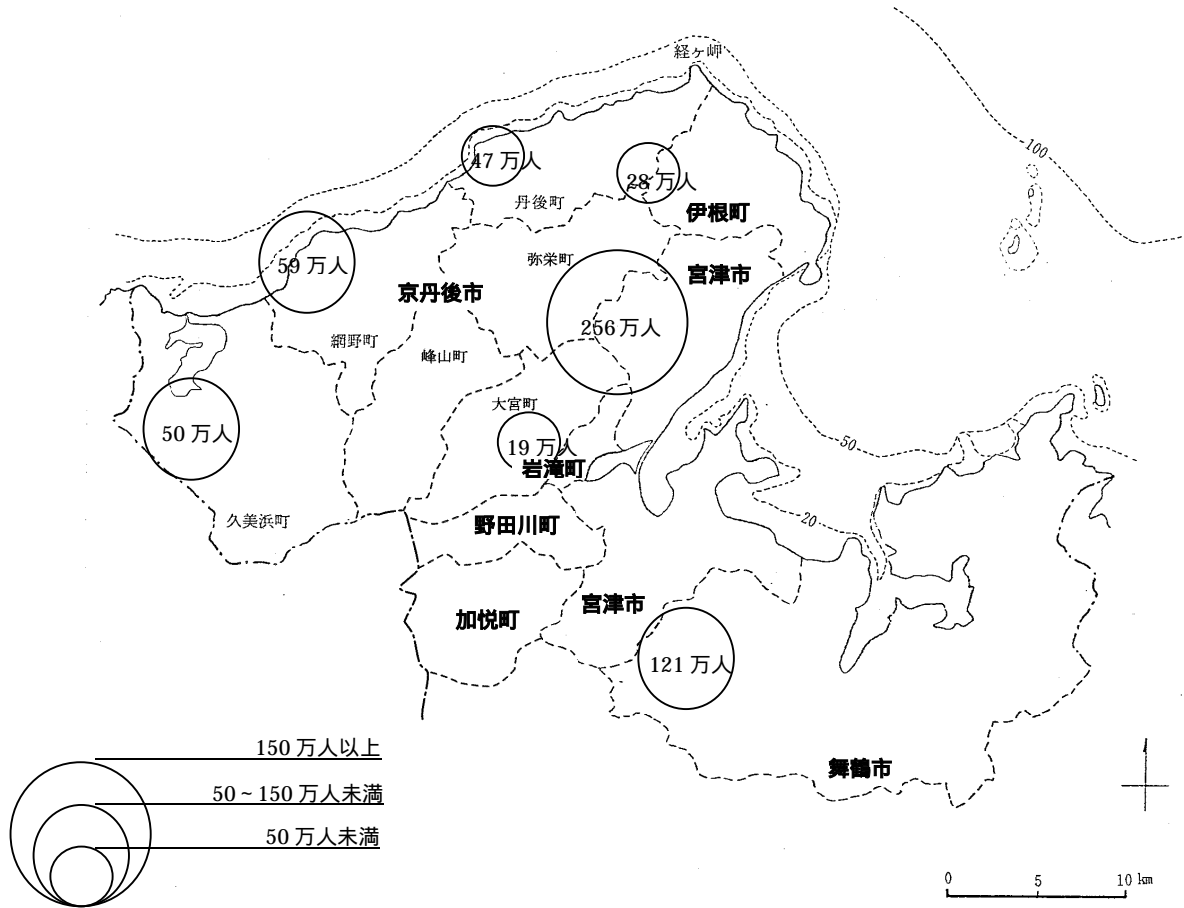
海水浴場の分布は、以下に示すように、京丹後市が16箇所と最多で、宮津市が9箇所、舞鶴市が3箇所、伊根町が2箇所となっている。これらの海水浴場では、近年前項のとおり、温泉などと併せた観光振興が盛んである(図2-17参照)。



図2-17：海水浴場の分布

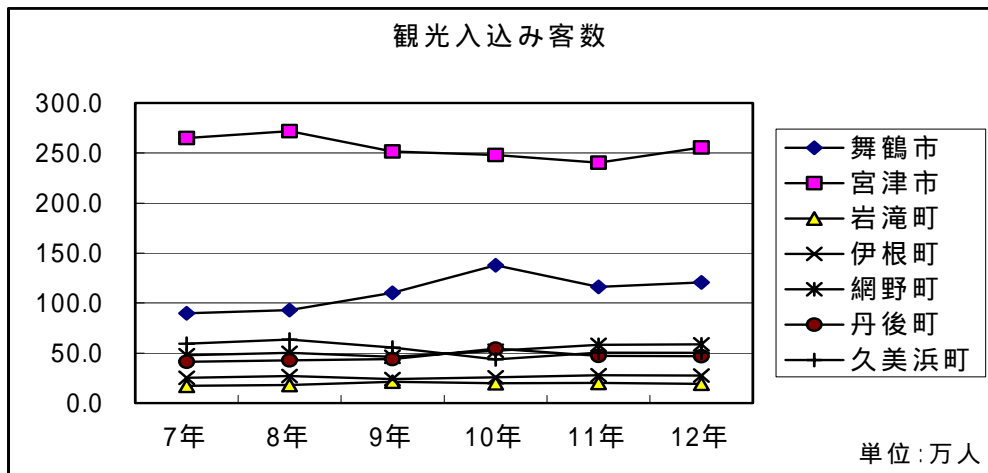
(5) 観光入り込み客数

年間の観光入り込み客数を市町別に見ると、宮津市の 256 万人が最多であり、次いで舞鶴市の 121 万人、網野町の 59 万人と続いている（図 2-18 参照）。観光消費は宮津市が約 80 億円で最も多い（平成 12 年現在）。



(平成 12 年度観光入り込み客数)

京丹後市：平成 16 年 4 月 1 日、峰山町・大宮町・網野町・丹後町・弥栄町・久美浜町の 6 町合併により誕生



出典：京都府観光商業課資料

図 2-18：観光入り込み客数

(6) プレジャーボートの係留

丹後沿岸におけるプレジャーボートの係留数は、平成14年度の調査で1,676件ある。その内の592件(約35%)が、放置艇として不法係留されている。その内訳は、小型モーターボートが、490件と最も多く、次いで艇長が7.5m以上の大型モーターボートが86件となっている(表2-2参照)。

表2-2：丹後沿岸の区別・種類別プレジャーボート係留数

		全区域					漁港区域				
		CY	DY	M大	M小	計	CY	DY	M大	M小	計
マリーナ等	公共等	24	0	43	211	278	0	0	0	0	0
	民間	4	58	137	441	640	0	0	0	0	0
	小計	28	58	180	652	918	0	0	0	0	0
マリーナ等以外		0	0	21	145	166	0	0	0	0	0
放置艇		14	2	86	490	592	14	0	68	180	262
合計		42	60	287	1,287	1,676	14	0	68	180	262
		港湾区域					港湾・河川重複区域				
		CY	DY	M大	M小	計	CY	DY	M大	M小	計
マリーナ等	公共等	24	0	43	211	278	0	0	0	0	0
	民間	4	58	137	441	640	0	0	0	0	0
	小計	28	58	180	652	918	0	0	0	0	0
マリーナ等以外		0	0	21	145	166	0	0	21	145	166
放置艇		0	2	18	238	258	0	0	10	97	107
合計		28	60	219	1,035	1,342	0	0	31	242	273
		河川区域					漁港・河川重複区域				
		CY	DY	M大	M小	計	CY	DY	M大	M小	計
マリーナ等	公共等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	民間	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
マリーナ等以外		0	0	21	145	166	0	0	0	0	0
放置艇		0	0	24	196	220	0	0	14	27	41
合計		0	0	45	341	386	0	0	14	27	41

CY: クルーザーヨット(船室あり), DY: ディンキーヨット(船室なし)

M大: モーター付きで艇長7.5m以上, M小: モーター付きで艇長7.5m以下
漁船を除く。

漁港区域、港湾区域、河川区域の数値には、重複区域の数を含んでいる。

平成14年度全国プレジャーボート実態調査(3省庁合同)

(7) 港湾の利用状況

港湾としては、重要港湾の舞鶴港と地方港湾の宮津港・久美浜港が存在する。取扱貨物量は、舞鶴港が696万t(平成14年)と最大であり、宮津港の98万tがこれに続き、久美浜港は828tである(図2-19参照)。

入港船舶数は、舞鶴港の5,037隻が最多で久美浜港の2,880隻がこれに続いており、1千トン未満の入港が多くなっている(表2-3参照)。

表2-3：平成14年入港船舶数

トン数	入港船舶数			船種	船種数		
	舞鶴港	宮津港	久美浜港		舞鶴港	宮津港	久美浜港
1万トン以上	367	31	-	漁船	1,880	-	2,780
1千~1万トン	848	2	-	商船・自航	1,671	64	-
1千トン未満	3,822	177	2,880	避難船	1	-	20
総数	5,037	210	2,880	その他	1,485	146	80

出典：平成16年刊京都府統計書

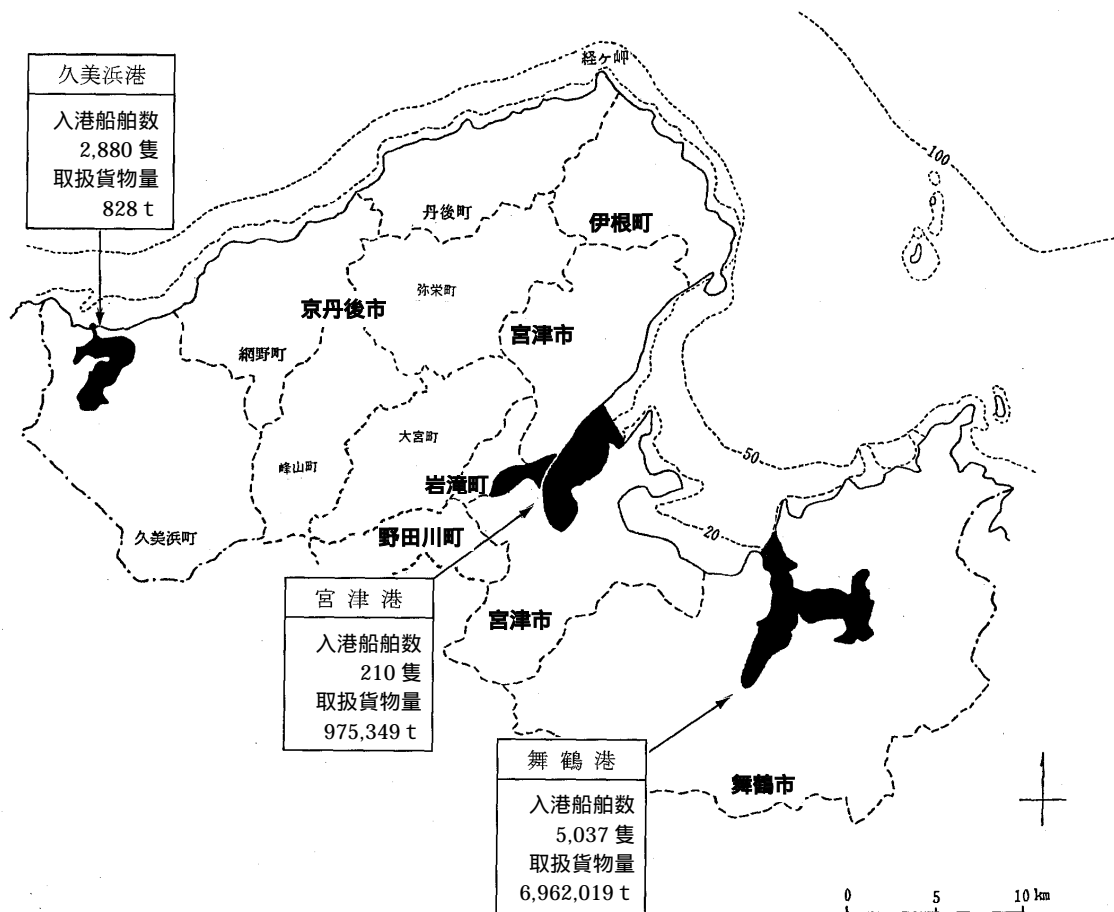


図2-19：港湾の位置と入港船舶数

(8) 漁業の状況

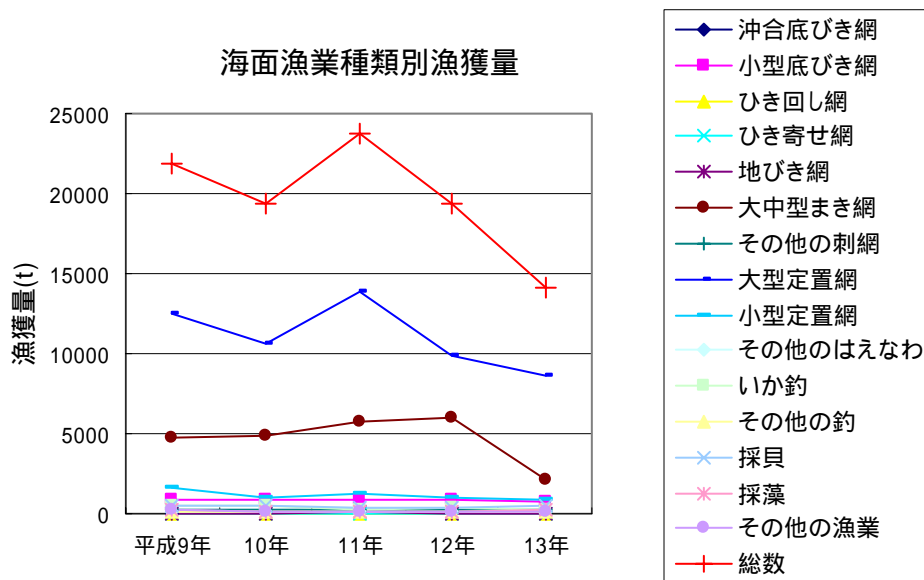
海面漁獲量

京都府全体の総漁獲量は、平成 9 年に 21,896 t であったのに対して、平成 13 年では、14,112 t と 7 割以下まで減少している。漁業種類別漁獲量をみると、大型定置網漁が 8,648 t と全体の約 6 割を占めており、次に大中型まき網が 2,185 t と約 1 割強を占めている (表 2 - 4、図 2 - 2 0 参照)。

表 2 - 4 ・ 図 2 - 2 0 : 海面漁業種類別漁獲量

単位 : t

漁業種類	平成9年	10年	11年	12年	13年
沖合底びき網	58	85	121	110	109
小型底びき網	884	885	932	880	765
ひき回し網	12	13	7	4	2
ひき寄せ網	0	0	1	0	0
地びき網	22	34	134	25	34
大中型まき網	4,741	4,886	5,802	6,004	2,185
その他の刺網	287	274	237	270	213
大型定置網	12,497	10,617	13,904	9,814	8,648
小型定置網	1,663	1,057	1,296	985	847
その他のはえなわ	155	134	110	98	102
いか釣	495	461	272	372	260
その他の釣	128	125	125	105	133
採貝	515	497	428	436	460
採藻	197	184	168	187	221
その他の漁業	243	179	157	137	134
総数	21,896	19,431	23,694	19,427	14,112



出典 : 平成 16 年刊京都府統計書

魚種別漁獲量

魚類の漁獲量は、アジ類、ブリ類が特に多くなっている。また、水産動物類のイカ類やサザエ、アサリ等の貝類、ワカメ類をはじめとする海藻類の漁獲量も多い(表2-5参照)。

海面養殖漁獲量

海面養殖漁獲量は平成9年時が871tであったのに対し、平成13年時が798tと8%減少している。また、海面養殖漁場は、伊根町、宮津市、舞鶴市のうち外洋に面する地区ではブリ類やタイ類、ワカメ等が主であり、特に舞鶴湾、宮津湾などの内湾ではカキ類や真珠が主となっている(表2-6参照)。

表2-5：魚種別漁獲量

単位：t

魚種	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
魚類	19,096	17,179	21,664	17,005	11,920
いわし類	6,759	4,116	7,814	3,502	1,467
あじ類	6,038	6,828	7,196	4,876	2,576
ぶり類	960	2,053	1,980	1,617	2,503
さば類	1504	661	793	2512	526
その他	3,835	3,521	3,881	4,498	4,848
海産哺乳類	-	-	-	-	-
貝類	567	560	466	498	532
その他の水産動物	2,035	1,510	1,396	1,740	1,440
海藻類	197	184	168	186	220
総数	21,896	19,431	23,694	19,427	14,112

注：ラウンドの関係で総数と内容は一致しない

出典：平成16年刊京都府統計書

表2-6：海面養殖漁獲量

単位：t

	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年
海面養殖漁獲量	871	706	780	938	798

出典：平成16年刊京都府統計書

漁港

漁港は、合計 34 港である。そのうち、第四種漁港は、丹後町の中浜漁港であり、第三種漁港は、舞鶴漁港である。第二種漁港は、11 港、第一種漁港は、21 港である（表 2-7、図 2-20 参照）。

表 2-7：漁港一覧

所在地	管理者	四種	三種	二種	一種
舞鶴市	京都府	-	舞鶴	-	-
	舞鶴市	-	-	田井（舞鶴）、野原、小橋	水ヶ浦、成生、三浜、瀬崎、西大浦、神崎
宮津市	宮津市	-	-	栗田、養老	由良、島陰、田井（栗田）、溝尻
伊根町	伊根町	-	-	伊根、新井、浦島、本庄	泊
京丹後市	京都府	中浜	-	-	-
	京丹後市	-	-	間人、浅茂川	袖志、竹野、小間、砂方、三津、遊、磯、浜詰、蒲井、旭

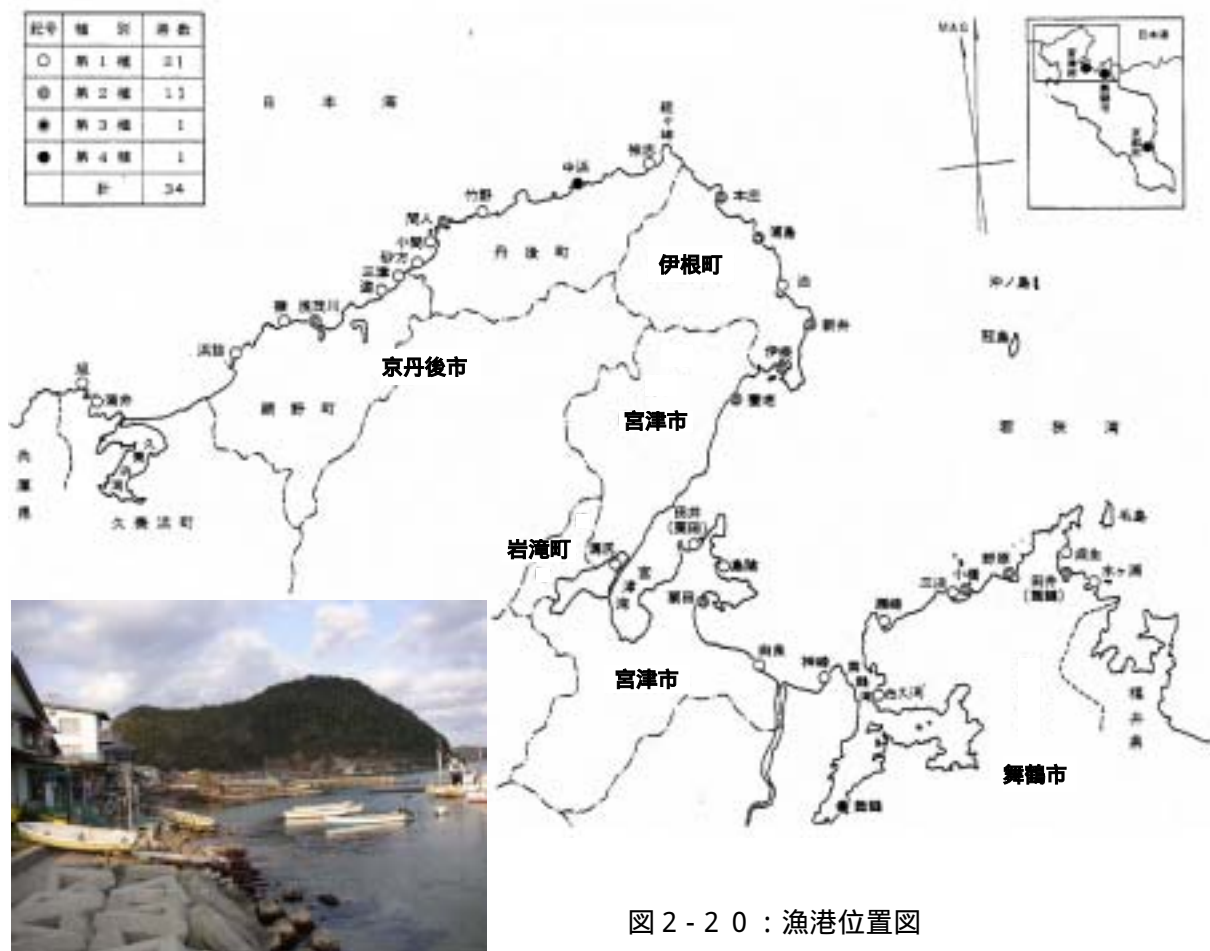


図 2-20：漁港位置図

遊漁

主な海釣り場は、久美浜湾、網野～伊根の海岸線、宮津湾、栗田湾、舞鶴湾、大浦半島の海岸線のほぼ全域の海岸線に分布している（図2-21参照）。

遊漁対象魚種は様々であり、いわゆる船釣りをはじめ、内湾部でのイカダ釣り、岩礁部での磯釣りなどが沿岸遊漁の主なものとなっている。近年、道路整備などにより京阪神方面からの遊漁者などが増加しているとみられ、釣りゴミの投棄、駐車マナーの悪さ等の問題も目立つようになってきた。



宮津市海洋釣り場

カキ養殖筏（舞鶴市吉田）



図2-21：沿岸の魚種

出典：「京都の水産」（平成15年3月）パンフレット

漁港整備における生物環境創造の事例

丹後沿岸では、以前に比べ、漁業者の数が減少するとともに、高齢化が進んでいるが、対馬暖流や丹後半島、あるいは丹波山地の山々から流入する河川の恩恵を受け、豊かな漁場が形成されており、それぞれの市町で、特徴のある漁獲があるなど、地域基幹産業の1つといえる。府内には、大小34の漁港があり、各地域の漁業規模などに応じた漁港整備が、周辺海岸の整備と併せて行われている。

これらは、漁獲や漁村生活のための施設であり、海岸及び海域をある程度改変して、整備するものであるが、そのことにより、悪影響を生じさせないように、京都府及び関係市町においては、漁場整備等と併せて、環境に配慮した内容で推進している。



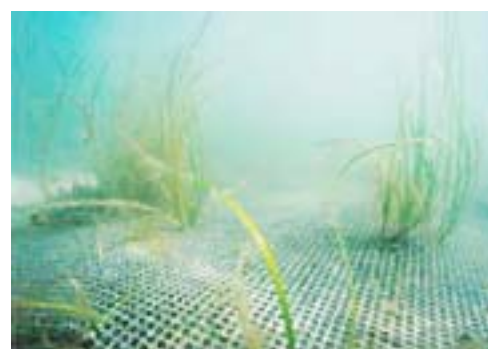
安全な港をつくるため漁港整備を進めているが、魚や貝が好むような構造や材質を積極的に採用している。

自然石の利用、海水循環のための防波堤削孔、消波ブロックにサザエ、アワビのすみかとなるよう溝をつけるなど様々な手法を導入している。

その他、漁港整備と並行して生物環境を守り育てる取り組みが多数ある。



間伐材などを利用した魚礁



藻場の育成

